

革命児は旧くなくても強い

ア ルファ・ロメオ156の中古車が売れている。セダン、スポーツワゴンとも好調なセールスを記録しているようだ。特集の取材で足を運んだ正規ディーラーの中古車担当者たちは、口を揃えて走行距離の少ない156は需要を満たしていない状況だと話す。まさにうれしい悲鳴だろう。スポーティモデルのGTAともなると、インターネットで全国ディーラーの在庫を検索しても、数台しか見つからない。現行型(159)にスポーティモデルやステーションワゴン、そして何よりAT仕様が導入されていないのも156人気に拍車をかけているのかもしれない。専門店も訪ねてみたのだが、やはり程度のいい赤や黒系の156は品薄状態で仕入れに苦労しているという。

ところで、ある正規ディーラーでおもしろい話を聞いた。156の中古車を購入する方には、50代中盤~60代の男性が少なくないというのだ。これは意外だった。05~06年の統計によると、30代後半の男性(既婚)が最も多く、なぜか40代が抜けて、次が50代中盤から60代の男性となる。特に後者の場合は、ほとんどがセダんだ。中にはGTAを指定する人もいるらしい。「いつかはクラウン」「いつかはメルセデス・ベンツ」ではなく、「いつかはアルファ・ロメオ」と思っていた方がけっこういたわけである。だからGMの血が

入った159にはいかないのかな。僕はアルフィスタではないけれど、50代の半ばを超えて156GTAに辿り着く人のクルマ人生ってとても素敵に思える。

最近はとても若々しい50~60代の方が多い。一昔前のイメージからすると、心身ともに10歳くらいは若いと考えていいのかもしれない。

そうそう、この前TVで『吉田拓郎&かぐや姫 Concert in つま恋 2006』の総集編を観た。拓郎さん、こうせつさん、しょうやん、パンダさん、中島みゆきさん……、出演者の皆さんはまさにこの年代なのだけれど、とにかく若い! もちろんバリッとした現役だ。張りを失っていない歌声、体から溢れ出す圧倒的なパワー、驚いた。恐れ入った。拓郎さんはなんと61歳なんである。僕が中学生だった頃に憧れていたお兄さんたちは、30年以上の時を経て、とても素敵なおじさんになってくれた。特に『今日までそして明日から』は、ハートに刺さった。彼はやはり天才なのだと思う。あの歌詞を20代で書いたのだからすごい。

日本経済の高度成長を支えてきた大先輩たちは、たとえば156やつま恋のように、またしても自分たちの手で新たな市場を生み出し、新しい時代を作ろうとしている。人口が少ないとはいえ、我ら40代もぼんやりしてはられない。

FROM UCG

野田義彦
YOSHIHIKO NODA

情報誌の編集部を経て、創刊準備号からUCGに加わり、第2特集のちょっと古いクルマを中心に担当。03年4月号からUCG編集長を務める。現在の愛車はアルファ・ロメオ156TI 2.0JTS。1959年生まれ。



Illustration: 谷山彩子